

Aoyama Gakuin Museum Letter

No. 1

創刊号

▼ 青山学院ミュージアム コリドールギャラリー

(画像提供: 丹青社 撮影: Level9 Inc.)

青山学院ミュージアムの展示室へと続くコリドール・ギャラリーは、青山学院の歴史を紡いできた人々の想いが、光に照らされたメッセージとして私たちを誇ります。相次ぐ災害や戦禍のなかにあっても、常に存在し未来へと続く「愛と奉仕の精神」を、これらのメッセージから感じることができるでしょう。



青山学院ミュージアム館長挨拶	2 ~ 3
青山学院ミュージアム展示室紹介	4 ~ 5
特別展開催報告	6
青山学院ミュージアム展示資料紹介	7
Museum News	7 ~ 8

ご挨拶 青山学院ミュージアムの開館について



青山学院ミュージアム館長 小林 和幸

青山学院は、1874年のドーラ・E・スクーンメーカーによる「女子小学校」開校を起源とし、2024年には、創立150周年を迎えました。青山学院ミュージアムは、この青山学院創立150周年記念事業の一環としてその掉尾を飾る形で、2025年5月に開館いたしました。

青山学院には、先人たちの努力により、明治期以来のメソジスト教会関係資料をはじめとするキリスト教関係の貴重な文献が収集、所蔵されています。また、青山学院に関する歴史的な資料についても収集の努力が継続され、1978年に設置された青山学院資料センターがその役割を担い、資料の公開・展示もあわせて行ってきました。ただし、展示スペースなどに限りがあり、貴重な資料を一般の皆さんに十分公開できたとは言い難い面がありました。

また、大学における博物館学芸員資格取得希望者の増加もあって、2000年代には、大学文学部を中心に、博物館実習が行える博物館相当施設を学内に設置する構想が検討されてきました。青山学院が収集した学院史関係の資料や貴重なキリスト教関係資料を展示・公開し、学芸員教育を行うため、博物館相当施設を設置することは関係者にとっての念願でした。

こうしたなかにあって、2014年の青山学院創立140年におけるAOYAMA VISIONの事業計画策定に際して、「キャンパス再開発10年計画」に、「自校史教育・研究の拠点となる青山学院歴史資料館の建設」がうたわれ、博物館の開設が創立150周年記念事業として位置づけられました。この計画に基づき、開設のためのワーキンググループが第一次、第二次と設けられ博物館の基本構想が検討され、大学の機関として青山学院史に関する研究所を設置するとともに法人組織として設置する博物館を同研究所と協同運営するといった運営形態が提案されました。この構想は、法人執行部等からもご承認いただき、2021年10月からは、担当常務理事を委員長とする開設準備委員会が設けられました。



フィランダー・スミス・ビブリカル・インスティテュートの時計台鐘と小林館長

また同じく創立150周年の記念事業である『青山学院一五〇年史』の編纂は、資料センターに置かれた青山学院150年史編纂室が実務を担当してきましたが、この年史編纂室を基盤として、2021年4月、大学に青山学院史研究所が設置されました。研究所の設置は、自校史研究を重視して博物館施設の設置を推進された阪本浩前学長の力強いご支援によるものでした。

青山学院史研究所は、青山学院が収集・所蔵する歴史資料を分析・検討し、近代日本社会において、青山学院が果たした歴史的役割を広く研究することにより、ひいては近代日本へのキリスト教文化の影響を考察し、教育史、思想史、近現代史の発展に寄与することを目指し、あわせて、本学院の建学の精神と歴史的な位置付けを客観的に明らかにし、青山学院大学ならびに各設置学校における自校史教育の展開支援と高度化を担うことを目的としています。新しく設置される博物館施設の協同運営も想定されました。

青山学院史研究所では、助手・助教の任用が認められ、150年史編纂の執筆を進めましたが、この青山学院の歴史編纂は、博物館展示を考える上でも極めて重要なものでした。

開設準備委員会では、博物館の目的と役割、展示コンセプト、組織体制、開設場所の検討を行いました。

博物館施設の名称を「青山学院ミュージアム」とすることや、以下の博物館設置の目的などを2022年10月に報告書として提案いたしました。

青山学院は、1874年の創立以来、キリスト教主義を堅持する学校として、様々な制約を克服し、震災や戦争という困難を乗り越え、国内外の支持を得て、総合学園として発展してきた。青山学院歴史資料館（仮称）は、こうした青山学院の歴史を踏まえ、学院が収集・保存する歴史資料の展示を通じて、近代日本におけるキリスト教文化の受容とその歴史的な役割を明らかにし、学院設置諸学校の教育に資すると共に、所蔵資料や研究成果を広く公開して、現代社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

また、報告書では、博物館の役割や展示コンセプトなども示し、法人執行部等の承認を得、博物館の設計などに関する展示製作会社については、数社によるプレゼンテーション等を経て、株式会社丹青社が選定されました。

その後、2023年度には、開設準備委員会と丹青社で、展示基本設計の検討を行いました。2024年度には、間島記念館の改修を清水建設株式会社、展示施設設備の製作は、丹青社に担っていただく一方、「青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会」を毎月開催して進行状況の確認を行い、展示資料の選定やその配置、キャプション・映像の検討など開館直前まで続く様々な準備作業の実務をミュージアム事務室と青山学院史研究所が担当しました。開設に伴う移設作業は、日本通運株式会社が行いました。このほか、ミュージアムシアターで上映される「地に播かれた三粒の種」の改訂版制作ならびにミュージアム開設に伴う諸規則改廃手続きも実施しました。

開設に至るまでの数年間、ミュージアム関係者は、開設に向けた情熱を継続したこと、そのために多大な忍耐と努力が必要であったことをここに記しておきたいと思います。

設置構想から今日までの間、堀田宣彌理事長、山本与志春院長は積極的にご支援ご助言くださいり、担当の鶴飼眞常務理事には、ご理解とご支援を賜りました。さらに、丹青社には設計段階から有意義なご提案をいた

だき、工事担当の清水建設とともに、展示室施工においてご尽力を賜りましたことを心より感謝いたします。

青山学院の起源となる「女子小学校」の開校について、ドーラ・E・スクーンメーカーが「A very small light, in a very dark place!（極く暗き場所に於ける誠に小さな光）」と回想する言葉を残しています。青山学院は、スクーンメーカーらが灯した信仰の光に導かれて今日の総合学園に至ります。この「小さな光」という印象的な言葉に基づいて、ミュージアムのデザインコンセプトは「サイレントライト—静かな光—」としました。

なお、現在の展示以外の貴重なキリスト教関係資料や青山学院の歴史にとって重要な人物、例えば戦時下において青山学院の存続を守った笹森順造院長や国沢新兵衛院長事務取扱、小野徳三郎院長といった方々、社会の中で活躍された校友の方々についても、今後、特別展や企画展などのさまざまな機会を通じて取りあげ、光を当てる努力を続けて参りたいと思います。

青山学院ミュージアムは、青山学院「建学の精神」の殿堂となることをを目指し、学院が目標としますサーバント・リーダー育成に貢献し、在学生や校友の交流の結節点として、また、国内外の方々に親しまれ、青山学院の支援者の拡大に寄与し、文化的に広く社会に貢献できるように運営して参りたいと思います。皆さま方のご期待に添えますようミュージアム関係者一同、努力して参ります。ご支援のほどお願い申し上げます。

（大学文学部教授・文学部長・青山学院史研究所長）



青山学院ミュージアムが入る間島記念館

青山学院ミュージアムのコンセプトと展示室紹介

ミュージアム事務室事務長 岩本 智実

青山学院ミュージアムのデザインコンセプトは「サイレントライト—静かな光—」です。

「女子小学校」の創設者であるドーラ・E・スクーンマークーが回顧録で記した「A very small light, in a very dark place! (極く暗き場所に於ける誠に小さな光)」からヒントを得たもので、青山学院ゆかりの人々の想いが光で紡がれ、来館者を優しく包み、静かに導く空間を象徴したコンセプトとなっています。

それは、禁教の時代を経て、時に災害や戦争の混乱、時に政治や経済の変動の中にはあっても、静かに強く示され続けてきた青山学院ゆかりの人々の愛と奉仕の精神の発露であり、その想いや言葉、行動に彩られた青山学院の歴史を光の系譜として表現し、各展示室それぞれの特色に合わせた照明演出につながっています。

【サーバント・リーダー ルーム】

～青山学院の先賢たちの記憶～

竣工当時、学院の中央図書館であった間島記念館の趣を採り入れた空間で、青山学院を支えたサーバント・リーダーと歴代の宣教師たちを紹介します。光の演出テーマは「敬慕の光」です。サーバント・リーダーたちが示してきた愛と奉仕の精神を今に伝える部屋として、来館者を柔らかくあたたかな光の演出で優しく迎え入れています。



サーバント・リーダー ルーム

【間島記念室】

～青山の地と青山学院の建物の記憶～

青山学院ミュージアムがある間島記念館は、校友の間島弟彦の遺志を継いだ妻の愛子夫人の寄付により学院の中央図書館として1929年に竣工しました（2008年に国

登録有形文化財に登録）。そのような図書館として建てられた間島記念館へのオマージュとして、ライブラリーに見立てた空間で、青山の地における校地校舎の変遷の中に青山学院の苦難と発展を振り返ります。光の演出テーマはサーバント・リーダー ルームと同様、「敬慕の光」です。



間島記念室

【キリスト教史】

～日本におけるキリスト教の歴史と青山学院の源流～

青山学院の源流であるメソジスト教会や、近世以前の禁教時代と近代以降の日本におけるキリスト教の歴史を紹介します。光の演出テーマは「包みこむ光」です。展示室に飾られた象徴的なステンドグラスを通した面発光の光により、キリスト教に対する深い信仰と青山学院の黎明を表現する清浄な光に包みこまれるような空間を演出しています。



キリスト教史

【コリドールギャラリー】

～青山学院ゆかりの功労者たちの言葉が紡ぐ光の系譜～

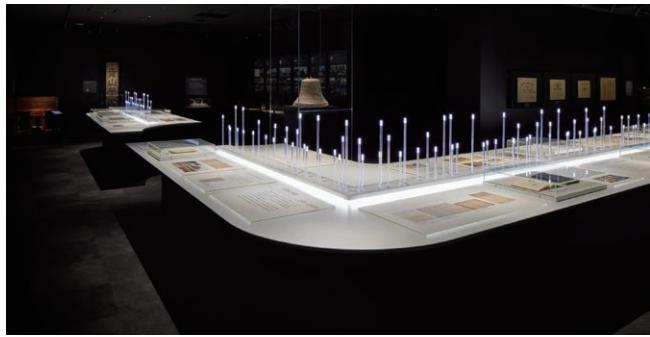
青山学院の歴史を紡いできた功労者たちの言葉を、光のメッセージで表現しています。光の演出テーマは「導く光」です。歴代の功労者たちの想い（メッセージ）が光となってメインの展示室へと導き誘うようなライン照

明で演出しています。(表紙写真参照)

【青山学院の歴史】

～青山学院 150 年の軌跡～

明治から現在に至る青山学院 150 年の歩みを「学院の礎石」、「青山の地へ」、「大正期の青山学院」、「戦争と教育」、「青山学院の戦後復興と発展」、「学院設置諸学校の発展」という 6 つのテーマに分けて紹介します。光の演出テーマは「軌跡の光」です。各時代ごとの出来事を象徴する展示資料やグラフィックを照らすスポット照明と、学院創立 150 周年記念事業の一環として開設したことを受け、150 本のロウソクを模した点光源をアクセントにして長くつながった展示テーブルを中心にして個々の活動の軌跡を一つにつなぐ空間を演出しています。



青山学院の歴史

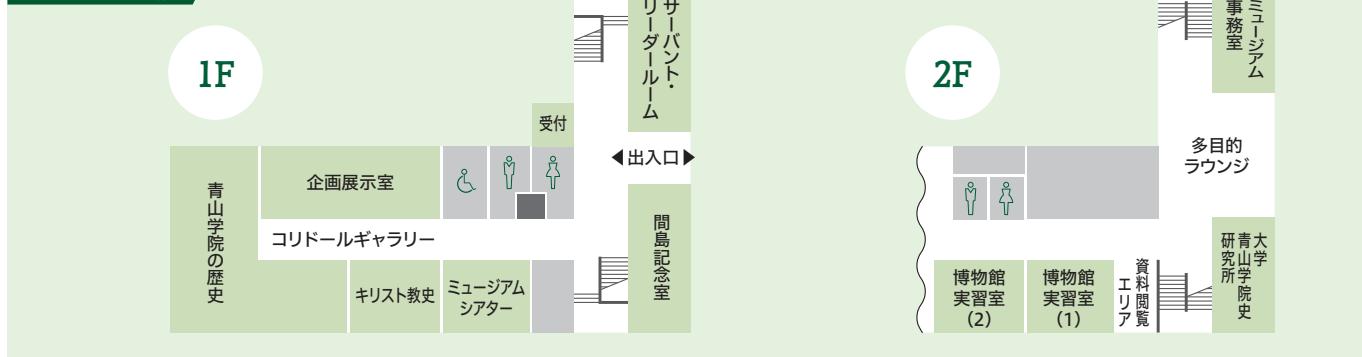
【ミュージアムシアター】

創立以来の青山学院の歴史を伝える映像を上映しています(約 25 分)。



ミュージアムシアター

Floor Map



【企画展示室】

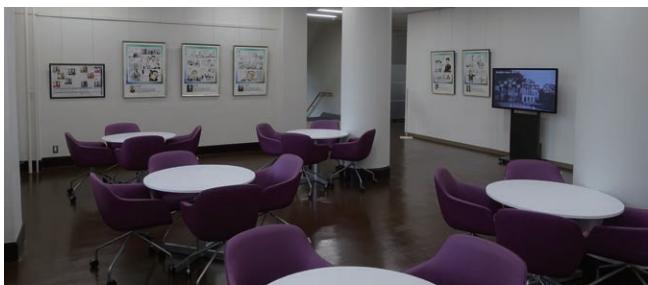
特別展や企画展を定期的に開催します。



企画展示室

【多目的ラウンジ】

ミュージアム 2 階には来館者が自由に利用できる多目的ラウンジを用意しています。ミュージアムが所蔵する学院の各設置学校の資料を自由に閲覧できるデジタルアーカイブや、学院創立 150 周年記念事業として漫画家の岸本斉史氏によって描かれた「青山学院を支えた人々～漫画で描くサーバント・リーダー～」のパネル展示も行っています。



多目的ラウンジ

以上、各展示室の特色について紹介しましたが、ミュージアムがある間島記念館は国登録有形文化財に登録されている関係で、多くの制約の中での改修工事となりました。特に構造壁の撤去ができなかった箇所もあり、小部屋に仕切られた空間を展示室として使用することとなりました。こうした制約のなか、小部屋ごとにいくつかのテーマに沿った展示を開設することによって、結果としてコンパクトでわかりやすい展示になったと考えています。

特別展「記録のなかの青山学院

——青山学院の歴史編纂——



青山学院ミュージアム学芸員 佐藤 大悟

青山学院ミュージアムは、2025年11月10日～12月22日に特別展「記録のなかの青山学院——青山学院の歴史編纂——」を開催しました。青山キャンパス間島記念館1階にあるミュージアムの企画展示室を本会場として、相模原キャンパス万代記念図書館入口にもサテライト小展示を設けました。



特別展の会場風景

この特別展は、2025年のミュージアム開館と『青山学院一五〇年史』完結を記念して開催した、ミュージアム初の特別展です。そこで、青山学院がこれまで編んできた様々な記録や歴史書を展示し、それらの成果が『青山学院一五〇年史』に結実していく過程を示しました。青山学院で教え学んだ人々が刻んできた歴史のなかに、青山学院の将来像を見出してもらいたいとの思いを込めています。続いて、展示内容を説明いたします。

1 日本宣教の歴史には、1873年に開始されたメソジスト監督教会による日本宣教の記録を展示しました。宣教開始25年を迎えた1890年代末に、宣教師たちが日本宣教開始時の状況の回顧を『護教』などに発表し、宣教の歴史を振り返ったことを示しています。

2 3つの学校の源流は、青山学院の源流となった女子小学校、美會神学校、耕教学舎に注目しています。この3つの学校に関する同時代の記録はほぼ現存しないため、創立期の青山学院の歴史は、後に記された教員や生徒の回想によって書かれてきました。

3 沿革史の始まりでは、『青山学院一覧』や『青山女学院一覧』の冒頭に掲載された沿革史を取り上げました。1894年に青山学院、1895年に青山女学院と改

称した頃から、両校は自校の歴史を記し始めました。

4 学風への注目は大正時代を扱いました。この頃、青山学院や青山女学院は自らを歴史ある学校と認識し始めていました。1923年の関東大震災によって校舎を失うと、青山学院は創立以来の歴史によって形作られてきた「学風」を拠りどころとして復興を図りました。

5 『青山学院五十年史』は、最初の学院史『青山学院五十年史』を紹介しました。当時、青山学院は東京英学校と美會神学校が合同した1882年を創立年と定めており、同書は創立50周年の1932年に刊行されました。

6 学院史の充実では、戦災復興を経て総合学園となった青山学院が刊行した、『青山学院八十五年史』(1959年)、『青山学院九十年史』(1965年)、『青山女学院史』(1973年)を展示しました。

7 各設置学校の歴史として、大学から幼稚園までの各設置学校がまとめてきた年史類を集めました。図版を多用するなど、趣向を凝らしていたことが分かります。

8 『青山学院一五〇年史』は、2019年から2025年にかけて刊行された『青山学院一五〇年史』資料編I・II、通史編I・II、別冊『写真に見る青山学院150年』を取り上げました。編纂の様子を物語る史料として、編纂に用いた校正刷も並べました。



『青山学院一五〇年史』の展示ケース

青山学院ミュージアムは、特別展(年1回)、企画展(年2回)の開催を予定しています。開催情報は青山学院ミュージアムのウェブサイトをご確認ください。また、開催報告については本誌に掲載して参ります。

(大学青山学院史研究所助教)

Topics

青山学院ミュージアム開所式

2025年5月1日（木）10:00～11:00

間島記念館2階多目的ラウンジで執り行われました。

伊藤悟学院宗教部長の司式のもと、堀田宣彌理事長、山本与志春院長による式辞、小林和幸青山学院ミュージアム館長による開設経過報告がなされ、堀田理事長より、設計を担当した株式会社丹青社の小林統代表取締役社長と施工を担当した清水建設株式会社の岡俊左執行役員・第一建築営業本部長に感謝状が手渡されました。



開所式の様子

青山学院ミュージアム内覧会

2025年5月7日（水）午前に青山学院ミュージアムへの高額寄付者の方々を対象とした内覧会、午後にはプレスリリースを開催いたしました。小林和幸館長による案内のもと新しいミュージアムをご見学いただきました。



内覧会の様子

展示資料紹介

「図書館日誌」に見る太平洋戦争の開始

青山学院ミュージアム学芸員 佐藤大悟

青山学院ミュージアムがある間島記念館はかつて、図書館として使われていました。そこでミュージアムの間島記念室に「間島記念図書館の記憶」という一角を設けて、当時の様子を伝える資料を展示しています。

今回紹介するのは、「図書館日誌」という資料です。この日誌を記したのは、間島記念図書館の主事や司書を長年務めた増田金四郎と推測できます。図書館の公的な日誌ではなく、備忘のために増田が付けていた仕事用の日誌という面が強く、1932年度の自由日記に1933年から1952年までの事柄を記入しています。

日誌に記されるのは、貴重図書の寄贈など図書館内の出来事だけで、個人としての感想は見られません。ですが日誌を読んでいくと、社会の変化が図書館に及ぼした影響に関する記述に目が留まります。

右の写真は、間島記念室で展示している1941年12月の日誌です。12月8日には「日米国交断絶、西太平洋に於て戦端開始、本日より夜間開館を初めし所、灯火管制施行のた

来館者・見学者

ミュージアムは開館以来、校友や本学の園児・児童・生徒・学生・教職員をはじめ多くの方々にご来館いただいています。

その他、大学入学広報部に団体見学を申し込んだ高校生・中学生および保護者の方々など多数の方にご見学いただいています。



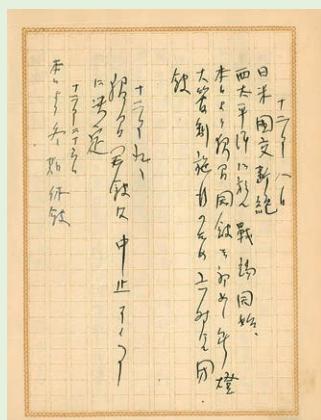
遺愛女子中学校の見学の様子（2025年11月13日）



専任事務職員対象 ミュージアムツアーの様子（2025年12月6日）

め六時にて閉館」、9日には「夜間開館は中止する事に決定」と書かれています。

図書館は毎年、試験期間である7月と12月に、午後8時までの夜間開館を実施していました。しかし、太平洋戦争の勃発に伴い、12月8日午後5時の警視庁告示によって、「灯火管制規則」(1938年制定)にもとづく灯火管制が開始されました。図書館は8日午後5時から夜間開館を始めたものの、灯火管制が始まつたため6時に閉館しました。夜間開館は9日に中止された後、戦時中を通じて再開されることはありませんでした。



今後の予定

公開座談会

第3回青山学院の歴史を語り合う会 「戦後復興期の青山学院（仮）」を企画しています。

戦後復興期（1950年代前後）の学院の様子について、当時学生、生徒または教職員だった校友の方に体験を語っていただく予定です。

日 時：2026年3月中旬

会 場：青山キャンパス会議室

司会進行：青山学院ミュージアム館長 小林和幸教授

主 催：青山学院ミュージアム、青山学院大学青山学院史研究所

協 力：青山学院校友会



間島記念館（ナノブロック製）

企画展

口語訳聖書発行70周年を記念して関連資料を展示する企画展を開催予定です。

会 期：2026年5月～6月

※詳細は、決まり次第、青山学院ミュージアムのウェブサイトに掲載いたします。

利用案内

青山学院ミュージアムは、青山学院創立150周年記念事業の一環として2025年5月に開館しました。1階は展示室ごとにテーマを設け、学院史やキリスト教に関する資料を展示しています。どなたでも入館できますので、是非お越しください。

ミュージアム見学

開館時間 ※入館は閉館の30分前まで

月曜～金曜日 / 9:30～16:30

土曜日 / 9:30～12:30

第3土曜日 / 9:30～16:30

どなたでも、無料で、ご見学いただけます。

事前予約の必要はございません。

ただし、10名以上でのご来館の際は、1週間前までにメールにてご連絡ください。
車椅子利用や階段昇降に不安のある方はご来館前にメールにてご連絡ください。

休館日

日曜・祝日、その他青山学院が定める休日等

詳細は青山学院ミュージアムのウェブサイト内の開館カレンダーをご参考ください。



レファレンス・資料閲覧

青山学院ミュージアムでは、150余年にわたる青山学院の歴史に関する資料、明治期キリスト教関係図書、メソジスト教会関係資料、明治期英語・英文学関係図書などを収集、保管しています。

研究調査等の特定の目的に限りレファレンス・閲覧が可能です。ご希望の方は、当ミュージアムのウェブサイト内より、「レファレンス・資料閲覧申込書」をダウンロードし、必要事項を入力の上、メールにて添付してご連絡ください。

なお、資料の館外貸出はできません。

閲覧時間

月曜～金曜日 / 9:30～16:30

(ミュージアム開館日内)

メール：ag-museum@aoyamagakuin.jp
(@を半角に変えてください)

[ご来館の皆様へ]

- ・傘(日傘を含む)は傘立てをご利用いただくか、ご自身のバック等の中に入れてください。
- ・展示資料、展示ケースおよび展示壁には手を触れないでください。
- ・携帯電話・スマートフォンはマナーモードに設定し、通話はお控えください。
- ・大声での会話、走り回るなど、ほかの見学者の迷惑となる行為はご遠慮ください。
- ・飲食（あめ・ガムを含む）はご遠慮ください。
- ・写真撮影は個人利用に限り可能ですが、ただし、フラッシュや三脚、自撮り棒等は使用できません。
- ・筆記用具は鉛筆のみ使用できます。
- ・音声ガイドをご利用の際はイヤホンまたはヘッドホンをご使用ください。
- ・スタッフの指示がある場合は、それに従って行動いただくようお願いします。

ミュージアム、ウェブサイト内および本誌内の画像・文章の無断使用・転用を固く禁じます。

ご利用希望の場合、事前にメールにてご相談ください。

Aoyama Gakuin Museum Letter

青山学院ミュージアムレター 創刊号

2025年12月20日 青山学院ミュージアム編集・発行



青山学院ミュージアム
AOYAMA GAKUIN MUSEUM

青山学院ミュージアム運営委員会

青山学院ミュージアム事務室

大学青山学院史研究所